



『 おなかのかぜについて 』

おなかのかぜのことを専門的には感染性胃腸炎といいます。感染性胃腸炎の原因は大きく二つに分かれ、細菌とウイルスがあります。

細菌にはカンピロバクター、サルモネラ、病原性大腸菌などがあり、主に夏場の食中毒として問題となります。

ウイルスにはノロウイルスやロタウイルスなどがあり、主に冬場のおう吐下痢症として知られています。

細菌は未調理の牛肉や鶏肉、魚介類に繁殖しやすく、加熱が不十分な食材を食べておこります。

ノロウイルスなどのウイルスは汚染されたカキを生で食べることにより、おう吐と下痢をきたしますが、その吐しゃ物に接触することにより、ヒトからヒトへの感染をおこします。

治療は、細菌性の場合には抗菌薬を使用し、ウイルス性のもものでは整腸剤や脱水症に対する点滴治療などを行います。

予防としては、食材の管理を適正に行うことや食品の加熱を徹底することが必要です。さらに感染拡大を防止する目的では、手洗いが有効です。食事の前には必ず手を洗いましょう。



鹿児島県厚生連
健康管理センター副所長
宮原 広典